

張さんより剣詩舞の紹介

【剣詩舞（けんしぶ）について】

剣舞（けんぶ）とは、広い意味では、刀剣を持って舞うことです。本来は、特に詩吟に合わせて日本刀を抜いて舞うことを指し、剣詩舞ともいいます。起源としては、武士から起こったものです。明治初期に日比野雷風（神刀流開祖）が剣術の形（型）を取り入れて現在の形になりました。

吟と舞は、基本的に別々の者が行います。人数は決まっておらず、吟者と舞者が一対一の場合もあれば、吟者一人に対して複数人で舞う場合もあります。吟者の格好は自由ですが、舞者は袴に白襦（しろだすき）、白鉢巻の装束で舞い、詩の情緒を表現します。演目によっては、刀に加えて扇子を用いることもあります。

【剣詩舞に興味を持ったきっかけ】

今年4月、滝川市国際交流員として赴任しました。何か日本文化に関係があることを習うことができれば、最高だと思っていたところ、偶然、剣詩舞と言う伝統舞踊があると聞きました。日本伝統文化に興味を持っていた私は、滝川にある剣詩舞の「翔和会」に参加しました。

週に1回の稽古を通して日本人の友達がたくさんできて、とても嬉しいです。先生と翔和会の皆さんのおかげで、日本の生活にもだんだん慣れ、剣詩舞の練習もますます楽しくなっています。

【剣詩舞の発表会】

9月22日（土）、翔和会5周年を記念した発表会がありました。ここでは、複数で踊る群舞〈大楠公（だいなんこう）〉と一人で踊る〈峨眉山月歌（がびさんげつか）〉を踊りました。週1回の稽古では一生懸命練習して、自宅では毎日先生の踊りのビデオを見ながら勉強しました。それは、発表会のためだけではなく、本当に日本文化に興味があるからです。発表会当日は、同僚の皆さんも私の発表を見に来てくれたので、嬉しかったです。

任期1年間の半分が過ぎました。この半年の間、北海道のきれいな景色も見られて、北海道の人たちの優しさも感じられました。これから、滝川のいいところを中国に宣伝するためにもっと頑張ります。

中国国際交流員着任のご挨拶

皆さんはじめまして。

私は中国からの国際交流員、張馨月（ちょう けいげつ）と申します。中国では日本語教師として、江蘇省連雲港市職業技術学院で働いていました。

私は、小さい頃、テレビで日本の〈金メダルへのターン〉と〈東京ラブストーリー〉と言うドラマを見て、和服の美しさと日本人の礼儀正しさに引きつけられました。それをきっかけに、一度日本に行きたいという夢をもって、大学では日本語科を選び、毎日一生懸命日本語を勉強しました。

今年の日中国交正常化40周年ということで、初めて日本に来る私も日中友好交流に全力を尽くしたいと思います。

今、北海道は中国人にとっても、魅力的な美しいところです。北海道を舞台にして、2008年に公開された映画「狙った恋の落とし方」は、中国で大人気となり、北海道は魅力的な観光地として有名になりました。私の知り合いも私が北海道で働くと聞いて、とてもうらやましいと言っていました。私は、この度国際交流員として滝川に来ることができ、嬉しい気持ちでいっぱいです。旅



峨眉山月歌（がびさんげつか）
を踊る張さん



行をすることが大好きなので北海道中を旅行して、美しい風景の写真を撮ったり、様々な出会いを楽しみたいと思っています。また、撮った写真を利用して、北海道のいいところをたくさんの中国人に紹介したいです。

<滝川市についての感想>

私の故郷である江蘇省ではもう4月の下旬の時点で26度を超える暑さだったため、初めて滝川に来たときは、寒さと雪にびっくりしました。連雲港市では2年に1度くらいしか雪が降りません。

滝川の人たちはみんな優しく、私の住んでいた町に比べて、静かでとても住みやすいです。

<やってみたいイベント>

いろいろなイベントをしたいです。特に中国語講座、中華料理教室、中国文化についてのプレゼンテーション、日中両国間の友好交流などのイベントをしたいです。

<趣味>

私の趣味はエアロビクスと水泳です。中国では、仕事が終わったらすぐにスポーツクラブに行って運動していました。日本では、日本舞踊をしてみたいと思っています。